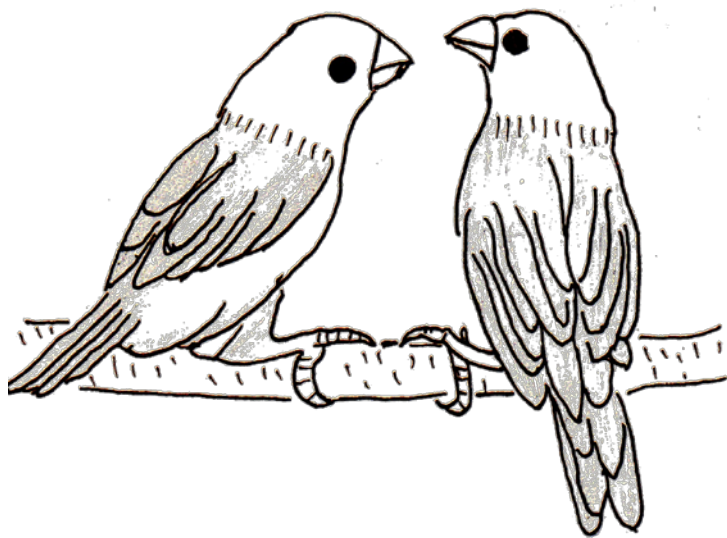


# さえざり

作品集第27号



相模原失語症友の会

平成27年度



## 目

## 次



(敬称略)

◆ <b>巻頭言</b>	バス・ハイク 2015	大堀孝章
--------------	-------------	------

◆ **作品**

書	鼻舌身意	内山 行央	1
	和気鼓祥	久田 稜	2
	識無眼耳	眞彗 繁子	3
	以心傳心	板垣 暁雄	4

手作り年賀状Ⅰ、Ⅱ	南の会の皆さん	5
-----------	---------	---

手作り年賀状Ⅲ	中央の会の皆さん	7
---------	----------	---

絵	長野県千曲市大雲寺、富山県南砺市五箇山	小川 治男	8
---	---------------------	-------	---

	紅葉	猶原 晃	9
--	----	------	---

	おだまき	古山 久子	
--	------	-------	--

(12 ページ佐藤司さんのバス旅行記の挿し絵)

陶芸	中鉢、茶器、お皿	長田 利夫	10
----	----------	-------	----

感想文	2015年10月27日バス旅行	陰山 誠人	11
-----	-----------------	-------	----

	バス旅行の感想	佐藤 司	12
--	---------	------	----

	伝説の洋画家たち二科100年展を観て来ました		
--	------------------------	--	--

		古山 久子	13
--	--	-------	----

◆ **例会担当言語聴覚士の皆さんより**

北里大学東病院	節目となった1年	安田 菜穂	14
---------	----------	-------	----

さがみりハビリテーション病院	『この1年を振り返って』		
----------------	--------------	--	--

		今井 淑恵	16
--	--	-------	----

相模原協同病院	初心にかえって	壬生 翠	17
東芝林間病院	ありがとうございました	和田 妙子	18

### ◆ 日ごろお世話になっているボランティアの方々より

ボランティア	松木 蘭 一道	19
手芸 藍染め	田口 さき子	20

### ◆ 昭和音楽大学学生さんより

友の会の皆様へ	平野 香穂、須藤 未菜、渡邊 暁、松田 春菜	21
---------	------------------------	----

### ◆ 南の会音楽療法担当の音楽療法士さんより

さがみりハビリテーション病院 2015年から2016年に向けて	越善 由佳	22
---------------------------------	-------	----

### ◆ この1年の活動を振り返って ----- 古山 高 ----- 23

♣平成27年度バス旅行	24
♣失語症者によるミニ作品展	25
♣相模原市主催障害者作品展	26
♣南の会・中央の会新年食事会	27
♣クラブ活動(音楽療法)	29
♣クラブ活動(習字教室)	29
♣NPO 法人れんきょう 平成27年度公開講座研修会 「失語症の正しい理解と接し方の実践講座」	30

### ◆ 編集後書 ----- 古山 高 -----

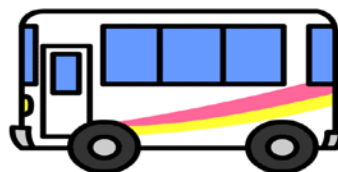
早朝の空は晴れていました。年に一度のバス・ハイクの日でありました。群馬県の富弘美術館へ向ってバスは相模原を後にしました。圏央道、関越道、北関東道を通り、伊勢崎 IC で降りて一般道へと入りました。高速道路で途中、2度のトイレタイムを取りました。一般道で暫く行くと路面に十字路に線路が有り、その上を通りました。添乗員さんに質問しました。その答えは、JR 両毛線の桐生駅から栃木県の足尾銅山で知られている終点の間藤駅を結ぶ「わたらせ渓谷鉄道」であることが分かりました。(旧 JR 足尾線)

バスは山間部に入り、車窓には「わたらせ渓谷鉄道」の線路が見え隠れしていました。やがて草木湖が見えて来ましたが、途中にあるのが富弘美術館です。富弘美術館の前を通り、草木湖の上を渡る草木橋を渡って対岸に 4 分程でサンレイク草木に着き昼食を取り、1 時間程でそこを出て富弘美術館へ着きました。

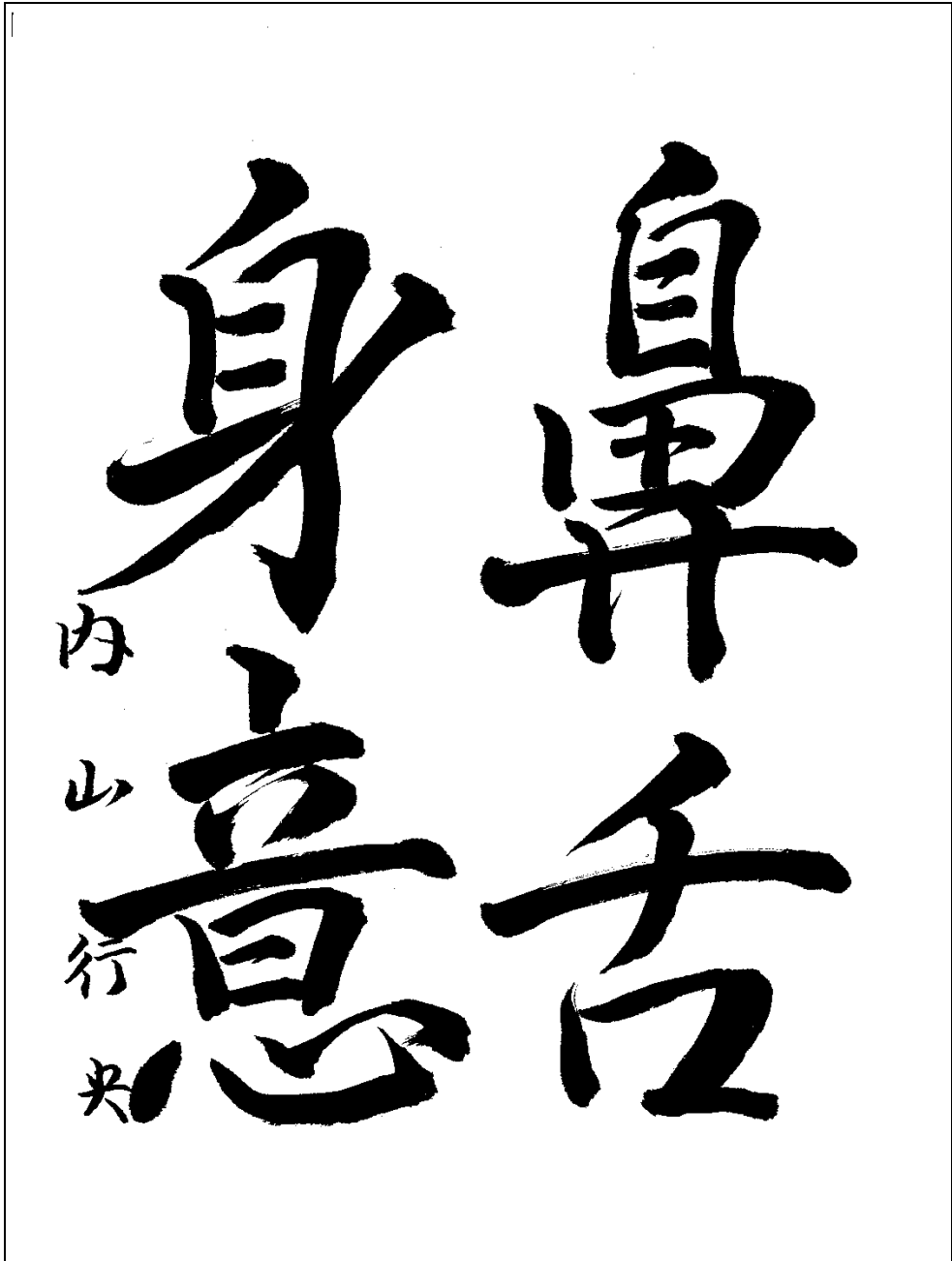
平屋建てで、杖、車椅子の方はありがたいです。中に入って分ったことは、円筒状になっていて大小の部屋がありました。四季折々の野の草花や海の部屋、空の部屋、風の部屋がありました。感銘を覚えました。

星野富弘氏は群馬大学教育学部体育科を卒業して中学の教諭になるが、1972 年クラブ活動の指導中に頸髄を損傷、手足の自由を失う。病院に入院中、口に筆をくわえて文や絵を書きはじめる。1979 年退院。その間本人はもとより、家族の方々は辛い思いをされたことでしょう。

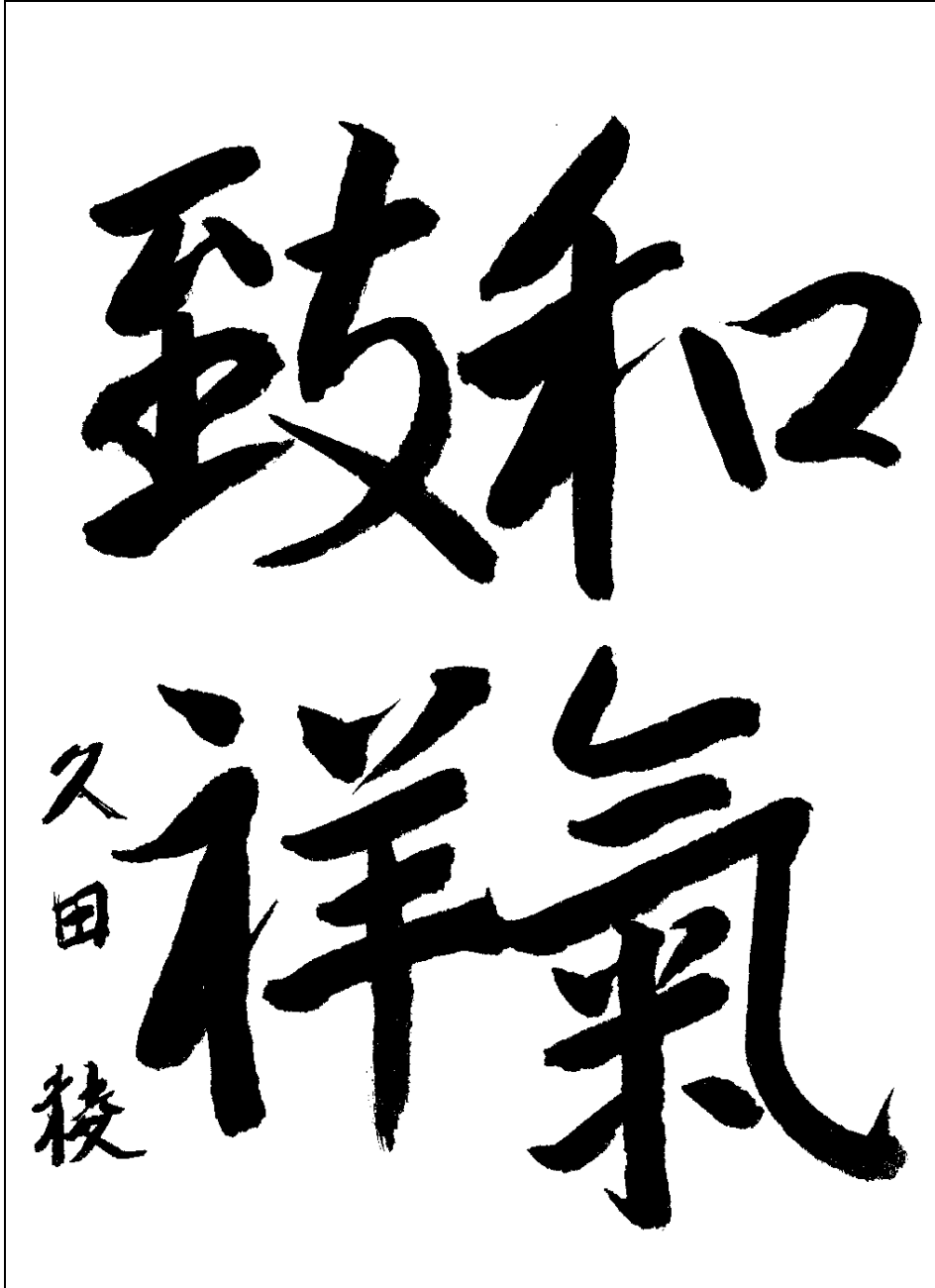
私は平成元年に脳梗塞で倒れて失語症になり、杖をついて歩ける様になりましたが、家族には辛い思いを掛けました。私より、それ以上に苦しみと悲しみと、重ね合わされた思いをしたことでしょう。



中央の会 内山 行央さん作品 書



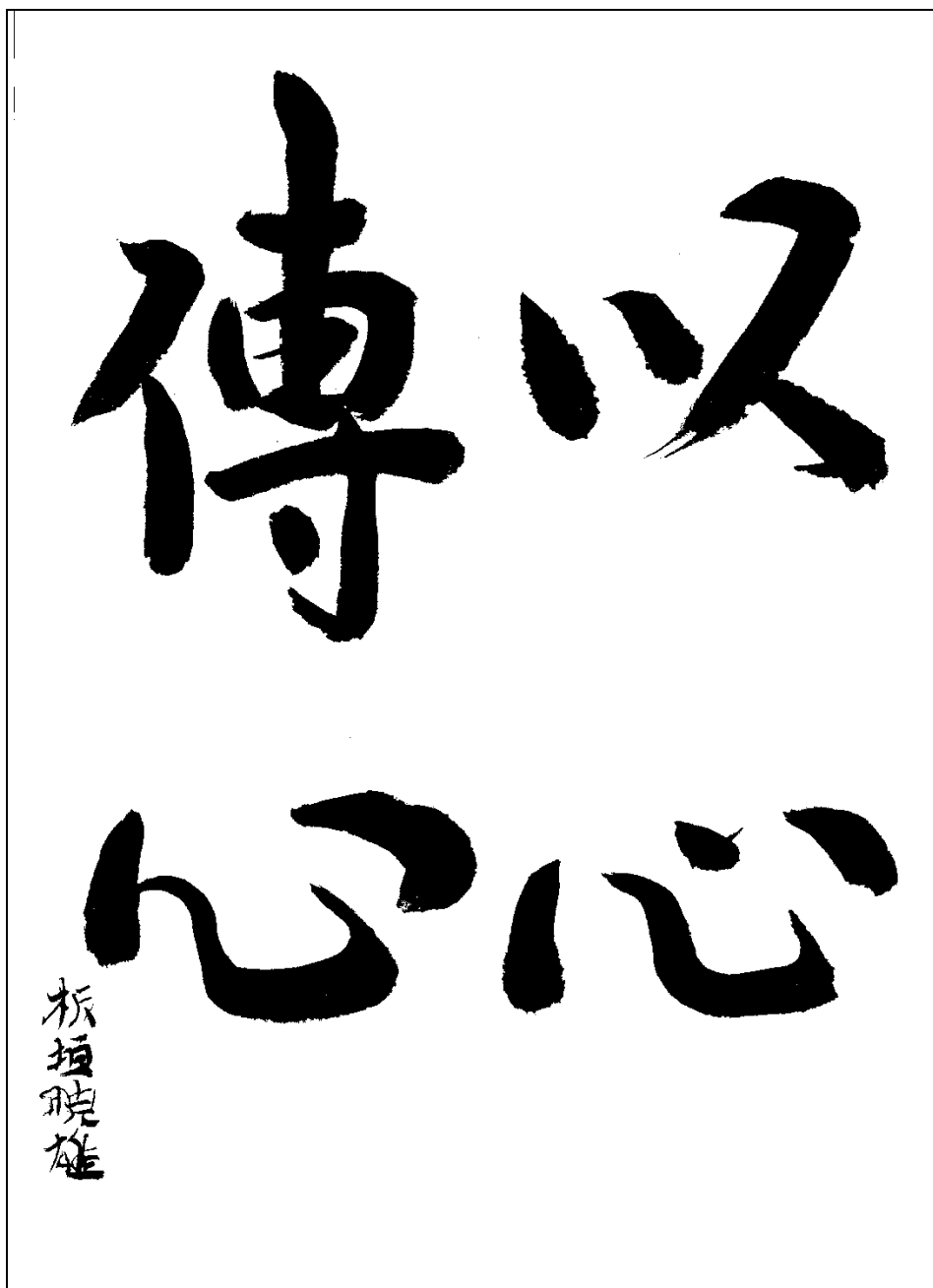
南の会 久田 稜さん作品 書



南の会 眞多 繁子さん作品 書



南の会 板垣 暁雄さん作品 書



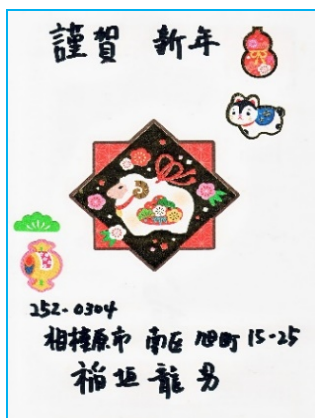


# 手作り年賀状 I 南の会の皆さん

指導担当：和田先生



大堀 孝章



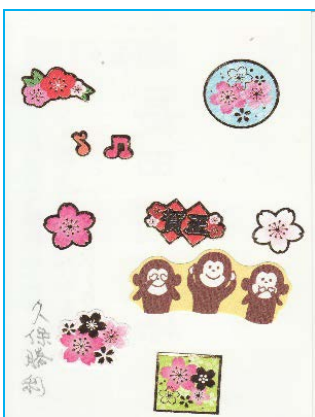
稲垣 龍男



長田 利夫



陰山 誠人



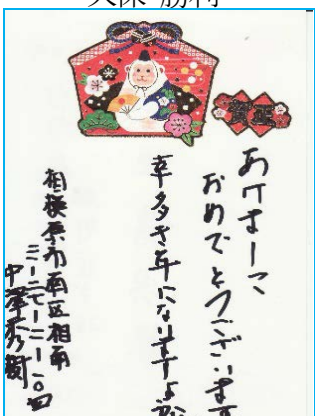
久保 勝利



古賀 國靖



佐藤 司



中澤 秀樹



花輪 義昭

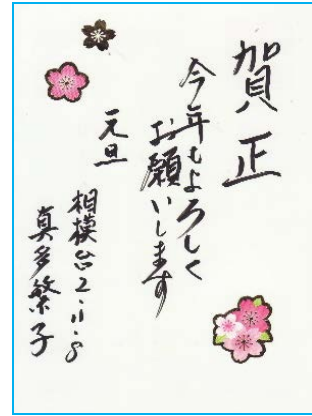
## 手作り年賀状Ⅱ 南の会の皆さん



久田 稜



古山 久子



真多 繁子



丸山 美代子



# 手作り年賀状Ⅲ 中央の会の皆さん

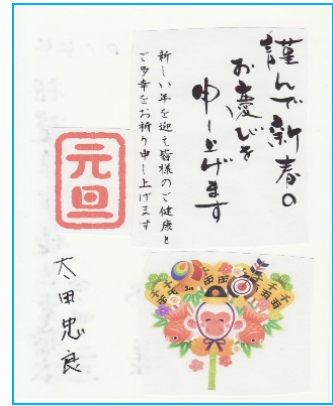
指導担当：山口先生・壬生先生



内山 行央



大堀 孝章



太田 忠良



小川 治男



長田 利夫



近藤 栄治



猶原 晃



中村 三郎



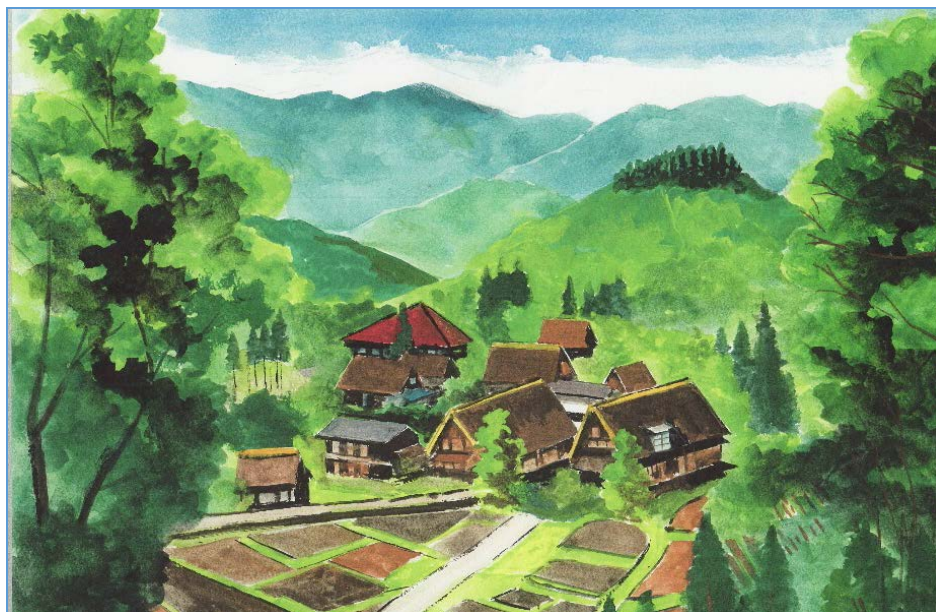


中央の会 小川 治男さん作品 絵画

長野県千曲市 大雲寺



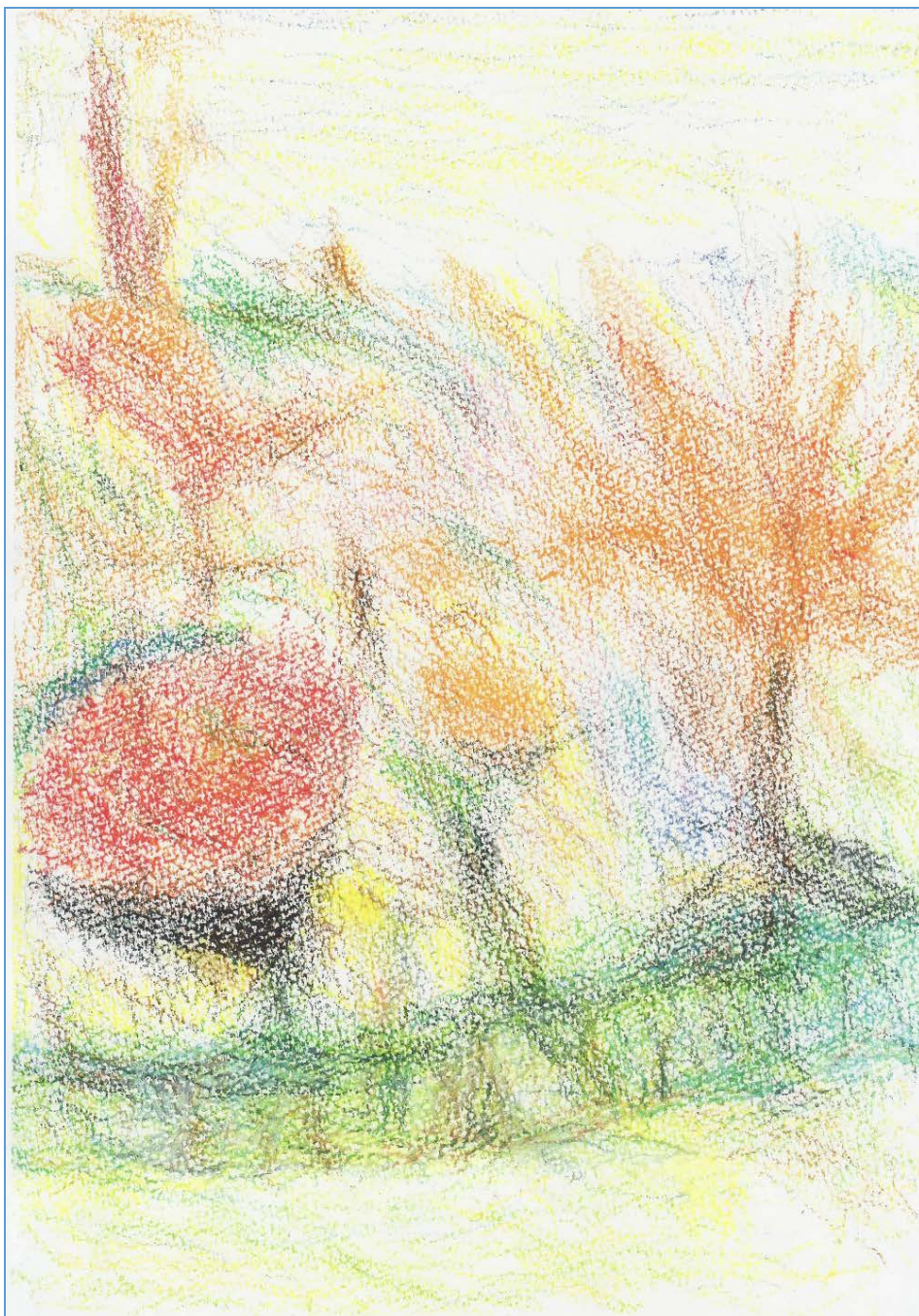
富山県南砺波市 五箇山





# 中央の会 猶原 晃さん作品 絵画

紅葉



中央の会 長田 利夫さん作品 陶芸

中鉢 茶器 お皿



# 2015年10月27日バス旅行

相模原失語症友の会 南の会  
陰山 誠人

私は2015年10月27日（火曜日）「富弘美術館バス旅行」に行くため家を出た。そして7時40分に「相模大野グリーンホール前」まで行った。私は「失語症南区集まる会員」に行った。「失語症中央区集まる会員」も集合したので、「富弘美術館バス旅行」全員が集まった。

バスは「圏央道相模原→狭山→関越道→北関東道（波志江）→伊勢崎IC→サンレイク草木」で昼食を取ったあと待望の「富弘美術館」に到着した。

私は「富弘美術館」のことについての事前の知識は何もありませんでした。「富弘美術館」は星野富弘様が群馬県みどり市に寄付をした美術館でした。星野富弘様は、23歳の夏に、高校で体育の授業の指導中に骨折をした。そして「療養」しながら「絵と詩」を書いた。それが「美術」でした。

私は「絵と詩」を見た。私は「詩」の方が「絵」より好き。それは「詩」で雰囲気であらわしている。そして「絵」がある。そしてビデオを見た。

私は「2016年カレンダー」を買った。そして私は「富弘美術館」をあとにした。私は帰路に付いた。

私は「富弘美術館→北関東道→関越道→圏央道」そして「相模原市民会館前18時00分に着いた。そして「相模大野グリーンホール前」には、18時50分に私は着いた。そして家に帰った。私は帰路しているときは寝ていた。

私は翌日、家で「2016年カレンダー」を見たら、「絵」は5枚、そしてカレンダーは12ヵ月。私はガッカリした。

そして12月再度「2016年カレンダー」を見たら、「絵」は6枚だった、そしてカレンダーを12月だった。私は間違いだった。

そして「2016年カレンダー」で1月を貼った。

## バス旅行の感想

相模原失語症友の会 南の会  
佐藤 司

1年ぶりにバス旅行に参加しました。

今回は、富弘美術館（群馬県東部エリアのみどり市東町）です。

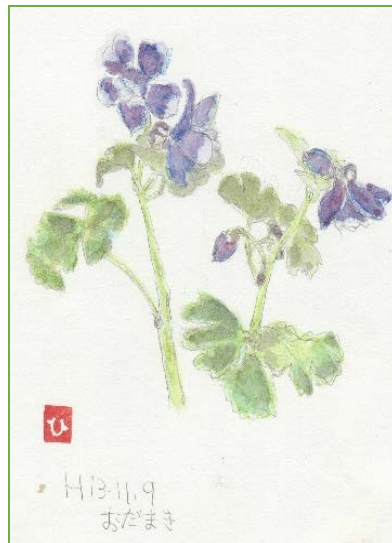
不慮の事故で、手、足の自由を失いながらも口に筆をくわえて描く草花と素朴で美しい詩の世界が見る者に生きる勇気を与えてくれる。星野富弘先生の作品を収蔵する美術館です。

渡良瀬川兩岸の紅葉が見事です。又、わたらせ渓谷鉄道のトロッコ列車や、草木湖ダムの眺めも素晴らしかった。

作品の中で特に一番印象に残った詩は

いのちが一番大切だと思っていたころ、生きの苦しかったいのちより大切なものがあると知った 日 生きているが嬉しかった。

いのち（おだまき）



古山久子さんが富弘先生の画集をお手本にして描いた「おだまき」の絵です。

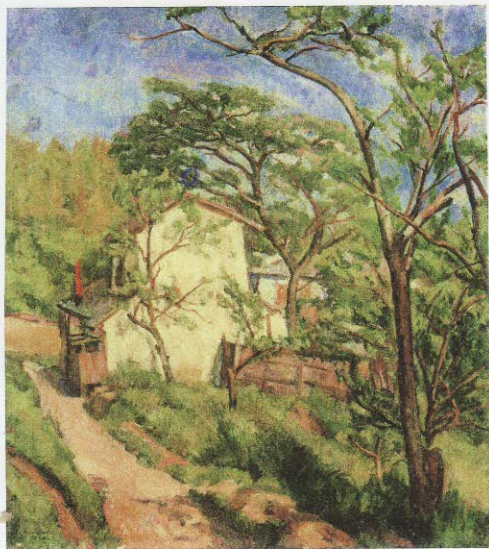


## 伝説の洋画家たち二科 100 年展を観て来ました

相模原失語症友の会 南の会  
古山 久子

8月24日に東京上野の東京都美術館に行き、岡本太郎、東郷青児、藤田嗣治、安井曾太郎等々有名画家の絵の展示会があり観て来ました。

到着して館内を順番に観て行くと、36番目に国枝金三先生が大正10年に描かれた「梅檀の木の家」と言う油絵がありました。私はその前で思わず声が出てしまいました。と言うのは、私が小学校6年生の時に栃木県内小学校生写生コンクールで最優秀賞を受賞した絵と、感じがものすごく似ているのです(下の写真)。



国枝金三 (梅檀の木のある家)  
せんだん  
(1921年第8回展に出展)

古山久子 (白い土蔵のある村)

(栃木県那須郡芦野村芦野小学校6年)

栃木県内小学校生写生コンクール

最優秀作品賞作品 (1953年)



## 節目となった1年

北里大学東病院 言語聴覚士  
安田 菜穂

昨年は、8年ぶりで相模原失語症友の会に参加させていただきました。大堀会長はじめ相模原失語症友の会会員の皆様、ご家族、ボランティアの皆様には、私が北里大学東病院に勤め始めた21年前からお世話になっています。当時3歳であった長男は、一昨年から社会人として相模原の会社で働き始めました。長年に渡り、変らない笑顔で迎えて下さる相模原失語症友の会会員の皆様、ご家族、ボランティアの皆様に深く感謝申し上げます。

昨年は、病院としても私個人としても節目となった年でした。病院としての節目は、昨年北里大学東病院はリニューアルオープンし、リハビリテーション回復期病棟を開設したことです。東病院にはこれまで3名の言語聴覚士が働いていましたが、昨年より新メンバーを加え5名で一緒に仕事しています。新メンバーの2人は、**笛田麻友さん**と**長谷部雅康さん**です。フレッシュな新メンバーを迎え、旧メンバーの3人もこれまで以上に張り切っています。

(写真) フレッシュな新メンバー

**笛田麻友さん**



**長谷部雅康さん**

私個人としての節目は、去年は北里大学東病院に勤め始めて20年目の年でした。そして去年は、失語症の患者さんやご家族の皆様のご協力を得て、「文を話す力について」の研究を行いました。ご協力いただいた患者さんに作成した検査を受けていただき、その結果をまとめました。

- ①文を話すのが難しい方は、名詞よりも動詞を話す力が低下していることがある
- ②長い文では、文を構成する名詞の選択が難しいことがある
- ③受動文では、主語と目的語の名詞が入れ替わってしまうことがある

文を話す練習をする場合には、動詞の練習が役に立つかも知れません。病院では、よく絵を見て動詞を言う課題を行います。家庭では教材がないかもしれません。そのような場合には、新聞や本などの文の動詞に線を引くと練習になります。

(例)

「雨が降りそうだったので、傘を持って出かけました」

見つけられた動詞だけでよいのです。声を出して動詞を読めば、さらに練習になるでしょう。日々の練習の参考にしていただければ幸いです。

新メンバー共々、今後ともどうぞよろしく願いいたします。



# 『この1年を振り返って…』

さがみりハビリテーション病院 言語聴覚士  
今井 淑恵

この間、さえずりの原稿を書いたと思ったら、あっという間にまた原稿を書く時期になってしまいました。日々の流れについていけないなあ、と感じる今日この頃です。

私事ですが、昨年末から訪問部署に異動になりました。そもそも車の運転に不安がある中でカーナビ無しで相模原市内を回れるのか不安を通り越して疑問でしたし、入院中の方にリハビリをすることが主だったのから在宅生活の方へリハビリすることは期待より不安の方が大きくありました。それでも、「車の運転は慣れるしかない」「リハビリは、今までの友の会で学んだことを生かせば大丈夫！」と割り切る中で、訪問リハの異動に臨みました。

今のところ、道は時々間違えますが事故なく業務を行えており、リハビリも友の会の経験を活かしつつ利用者さんからも日々学ばせていただくとても充実した毎日です。目標としては、在宅の方の社会参加のきっかけとして友の会を紹介し会員を増やすことです！

話は変わりますが、2月13日に失語症の正しい理解の公開講座があり、会員の石山さんに対談という形でコミュニケーションバリアについて話して頂きました。参加者の皆さんはとても真剣に聞いて下さり、石山さんの話す言葉のひとつひとつが皆さんの心に深く響いたのではないかと思います。講座後に、「良かったです」と声をかけて頂いたりもしました。このような活動が、失語症を含め、どんな人にとっても住み良い街(さがみはら)につながったらいいなと考えています。

最後になりますが、今後はさがみりハビリテーション病院からは“荒井”というSTが友の会に参加することとなりました。1年目ですが、きっと一生懸命頑張ってくれると思います。私も時折顔を見せることがあるかと思いますので、荒井共々これからもよろしくお願い致します！

# 初心にかえって

相模原協同病院 言語聴覚士  
壬生 翠

初めて「さえずり」の原稿を書かせて頂きます。相模原失語症友の会中央の会に参加させていただいてから、早いもので3年の月日が経とうとしています。

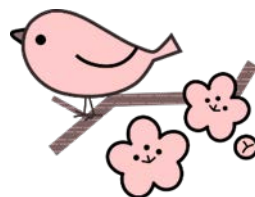
私がリハビリテーションの職を目指したのは、中学生の頃。リハビリテーションの特集をしていたテレビを見て、「人の助けとなる、こんな仕事に就きたいなあ」と思ったのがきっかけでした。高校生になり、リハビリテーションについて調べていると、“ことばのリハビリ”があることを知りました。「ことばの障害ってなんだろう?」「ことばのリハビリってどんなことをするのだろうか?」と、疑問ばかりでしたが、コミュニケーションに欠かせないことばのリハビリを行なう言語聴覚士に魅力を感じ、大学へ進学しました。大学では、講義や実習の毎日でしたが、なんとか乗り越え、言語聴覚士となることが出来ました。

就職し、毎日があっという間に過ぎていき、気づけばもう3年が経ちます。友の会では、退院された失語症の方がご自宅でどう過ごされているか、失語症の方同士のコミュニケーションの様子など、普段の臨床の場ではなかなか知ることができない多くのことを学ばせていただいています。私自身、まだまだ未熟な部分が多いですが、初心を忘れず、日々精進していきたいと思います。

最後になりますが、来年度に1人、新しく言語聴覚士が入職する予定です。友の会にも参加させて頂きたいと思っております。来年度もよろしくお願い致します。



# ありがとうございました



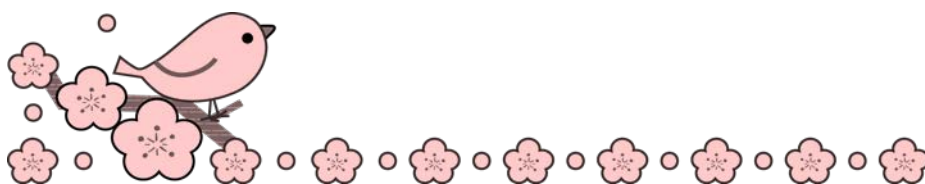
東芝林間病院 言語聴覚士  
和田 妙子

2月になり、そろそろ花粉の季節ですね。今年は飛散量が多いようで、もう既に花粉症の私の目と鼻を悩ませています。外出する際はマスクが欠かせませんね。

さて、一昨年春から友の会に参加して、2年が経とうとしています。早いものですね。はじめは緊張でいっぱいプログラムをこなすのに必死でしたが、2年目からはどうしたら皆さんに楽しんでもらえるか試行錯誤したものです。今まで行ったゲームなど、楽しんでいただけたのなら幸いです。今年は口の体操など、運動の要素を取り入れてみましたが、いかがでしたか？「こんな体操、こんなゲームがしてみたい」など、ご意見ありましたら教えていただきたいです。

残念なことに、今年度で相模原失語症友の会南の会の担当を降り、来年度からは男性の言語聴覚士が担当となります。古山さんから聞いた話では、当院から男性の言語聴覚士は初とのことですね。一体どんな様子になるのか少し楽しみです。

南の友の会の皆さま、古山さんに大堀さん、音楽療法学生の平野さん、ボランティアの皆さま、これまで様々な場面で協力いただいたり、時には助けていただいたり、大変ありがとうございました。東芝には来年度もいる予定なので、これからもよろしく願いいたします。





# ボランティア

相模原失語症友の会 南の会ボランティア  
松木 藺 一道

昨年、新年早々肺炎で入院し、家族や知人には、大変ご迷惑をおかけした。救急車で橋本の相模原協同病院に入院したのですが、手厚い看護を受け2週間で退院出来ました。入院中に中央の会を担当していただいております川路先生が、“松木 藺”と言う珍しい苗時に気づかれ、「もしや…?」と思われ病室を訪ねて来て下さいました。川路先生からは種々のアドバイスをいただき、感謝いたしております。これも失語症友の会を通じての「絆」だと思っています。その後は健康に気をつけていますので、腰や膝が悪いという持病はありますが元気に過ごさせていただいております。趣味の囲碁とゴルフがもう少し上達すれば大万歳なのですが、世の中はそう甘くないようです。

(写真) 沖縄の宜野座カントリークラブから遠くに辺野古の海をみる。



# 手芸 藍染め

相模原失語症友の会 南の会ボランティア  
田口 さき子

藍染布 仲良し親子猿



手びねり 母子猿





# 友の会の皆様へ

私は去年の夏頃からお世話になりました。皆様とお話したり、音楽をご一緒したことは、あっという間の時間でした。「こんにちは」と言うと笑顔で迎え入れてくださる、あたたかい雰囲気の友の会の皆様にご会うのが毎月楽しみでした。少ない回数でしたが、本当にありがとうございました。

学部3年 松田 春奈

大学院の授業のため、なかなか参加することができませんでしたが、あたたかく迎えて下さり嬉しかったです。いつも楽しそうに音楽をされている友の会の皆さんを見るのがとても好きでした。またいつか、皆さんと音楽出来る機会を楽しみにしています。1年間ありがとうございました。

大学院1年 須藤 未菜



今年度も友の会の皆様にはお世話になりました。一緒に歌や楽器を行えたことは私の思い出です。そして友の会での音楽の時間は、私の学びでもありました。そのような場と機会を与えてくださり、感謝しております。また皆様とどこかでお会いできたらと思っています。本当にありがとうございました。

学部4年 渡邊 暁

皆様と出会ってから、3年の月日が経とうとしています。失語症友の会の日々は、とてもかけがえのない時間でした。笑い声があふれる友の会が大好きで、いつも皆様を思い浮かべながら「今月は…」と内容を考えていました。皆様との3年間の思い出を胸に、これから新しい場所で音楽療法士として頑張っていきたいと思います。またどこかでお会いする機会を楽しみに、その際は音楽をご一緒できることを祈っております。今年度のボランティアスタッフを代表して、感謝御礼申し上げます。

大学院2年 平野 香穂

🌸 Thank you 🌸

平成27年度 昭和音楽大学  
ボランティアスタッフ一同

## 2015年から2016年に向けて

さがみりハビリテーション病院 音楽療法士  
越善 由佳

みなさんの2015年はどんな年でしたか？

私は人生の転換期と言っても過言ではないほど、怒涛の1年でした…。

9月1日の朝、通勤中に自転車ごと横転して右足首を骨折してしまいました。転んだ瞬間は何がなんだかかわからず、右足首はみるみる間に腫れ上がって痙攣がとまらず…。救急車で職場に向かい、レントゲン検査を終えて画面に映し出された私の右足首の骨はスパッと2ヶ所、綺麗に線が入っていました。

仕事はもちろん、いろんな予定をすべてキャンセルして療養生活に専念せざるを得ませんでした。手術を終えて1ヶ月半の入院生活、3ヶ月の休職期間。入院中は今後への不安や周りの方たちへ迷惑をかけてしまっている申し訳なさでいっぱいでしたが、そんな中、音楽療法メンバーからの素敵な素敵の色紙が届きました。みなさんからの直筆メッセージ、お名前の署名、復帰を待ってくださっていることを考えると…本当に嬉しくて嬉しくて、毎日のリハビリへのモチベーションになっていたのは間違いないです。ありがとうございました♪

リハビリへのもう1つのモチベーションは、「退院してから何がしたいか」を考えることでした。すぐに考えついた目標は、『美味しいビールを飲みに出かける！』『ディズニーリゾートで1日中遊ぶ！』でした。そして、1日でも早く好きなピアノと歌を復活させることも目標でした。幸せなことに、美味しいビールも飲めるようになりましたし、ディズニーランドとディズニーシーどちらにも遊びに行くこともできました。みなさんと楽しい音楽を共有して、好きなピアノと歌を仕事にしていることが本当に恵まれていることなのだと思えて実感することができました。

まだ少し馴染んでいない右足ですが…  
次の目標は、『カメラを持って桜を撮ってお散歩する』です。一眼レフを購入したので、あとは長い距離を歩けるように、春に向けてリハビリに精を出したいと思えます！！



## この1年の活動を振り返って

事務局  
古山 高

平成27年4月21日に開催された年度総会で承認された事業計画に沿って、日常活動を行って来ました。今年度は計画外の大きな2つ行事として、NPO法人れんきょうさんのご支援で、日頃失語症の方々と接する機会のある人、失語症者家族、行政、福祉関係、医療、介護、ボランティア、一般市民等を対象に、「失語症に関する正しい知識とコミュニケーションの方法」を、市内の病院、介護施設の言語聴覚士の方々からご指導をしていただきました。

当日は大勢の参加があり、限られた短い時間の中での研修会でしたが、失語症者とのコミュニケーションのコツを体得され帰られましたので、今後が期待されます。最終の30ページに関連お話と写真を掲載しています。

もう1つの行事は、社協南区事務所とお習字の先生が所属しているボランティアグループの「わ」みなみの方達と、会場になった南区地域福祉交流ラウンジのスタッフの方々のご協力ご支援で、「失語症者によるミニ作品展」を開催いたしました。この作品展は今回初めての開催でしたが、すごい大きな反響で、会員以外の多くの方が観に来てくれまして、開催して良かったと実感したところです。会員以外の仲間に元気づけが出来て大変良かったと思っています。会場に置いたノートには正直な感想を一生懸命書いてくれまして、観に来てくれた人、こちら友の会会員も元気ももらってお互いに良かったと思っています。「是非、次回も開催してほしい」とリクエストが多数ありましたので、来年度も是非ご期待沿えるよう頑張りたいと思っています。

恒例のバス旅行は、群馬県の富弘美術館に行きました。富弘先生の人生に皆さん感銘を受けて、直接、先生の絵、詩にふれて感動されて帰って来ました。少し遠方でしたが、みんな元気に帰れて良かったと思っています。

新年度も引き続き会員増加への活動、会員の若年化、世間での失語症を正しく理解していただき、私達失語症者が不自由なく生活出来るよう支援体制作って行く必要がありますので、関係先に理解と支援を要請して行きます。

## 平成 27 年度バス旅行

行き先：富弘美術館（群馬県みどり市）

日 時：平成 27 年 10 月 27 日（火）

参加人数：23 名

全員が楽しく、無事に行くことが出来ました。内容については、大堀会長、陰山さん、佐藤さんが感想を書かれておりますので省略いたします。



# 失語症者によるミニ作品展

事務局  
古山 高

日時：平成27年11月11日（水）～11月25日（水）

場所：南区地域福祉交流ラウンジ（相模大野駅ポーノ2階）

（写真）作品展の様子①



（写真）作品展の様子②



今回、相模原失語症友の会として初めての試みで、社会福祉協議会南区事務所と南区地域福祉交流ラウンジの協力を得て、相模大野駅前ポーノ2階の南区地域福祉交流ラウンジにて、「失語症者によるミニ作品展」を平成27年11月11日から25日までの2週間、会員が制作した作品で絵画、習字、陶芸（写真展示）彫金、写真、等を展示しました。

当初予想より反響が大きく多数の方々が足を運んでくれました。見て頂いた感想を準備したノートに、心温まるお言葉を沢山いただきました。

場所柄病院帰りのリハビリ患者の皆さん達が立ち寄っていただき、その人達に力を与えることが出来て、初期の目的を達成することも出来て大変良かったと思っています。来場された多くの方々から、「是非、次回も開催して欲しい」という要望が多く寄せられました。今後ご期待沿うよう、次年度開催を検討して行きたいと思っています。



## 相模原市主催障害者作品展

日時：平成27年12月5日（土）～7日（月）

場所：あじさい会館 6階 展示室

(写真) 出展作品



毎年障害者週間に合わせて開催される作品展に相模原失語症友の会も参加いたしました。絵画、習字、陶芸（写真展示）を展示しました。

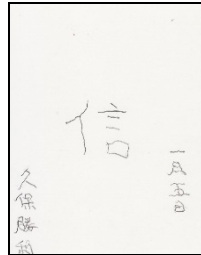
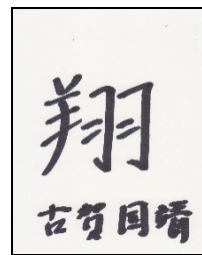
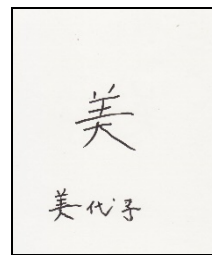
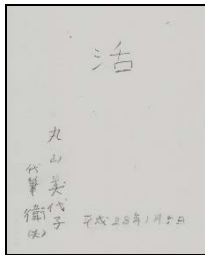
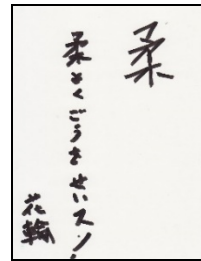
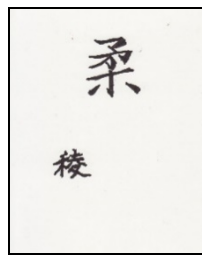
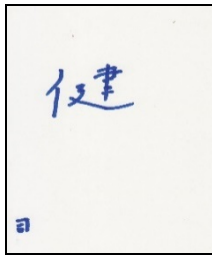
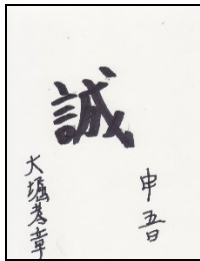
## 南の会・中央の会新年食事会

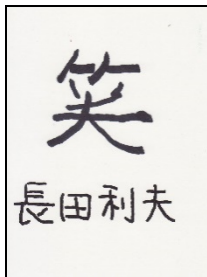
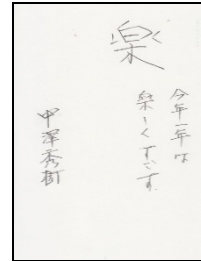
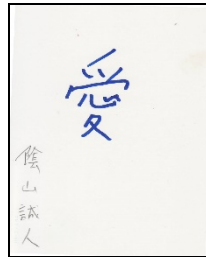
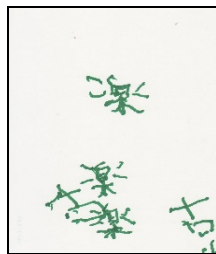
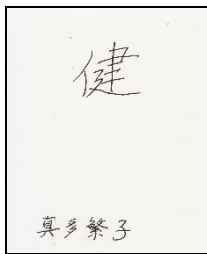
今年度も恒例にしたがって、1月の例会時に食事会を開催、その後例会で近況報告の中で年末年始の報告他を行いました。

新年にあたり南の会では、「今年はどうな年にしたいか、それを漢字一文字で表現すると？」をテーマに、会員の皆さんに配布したカードに書いていただきました。



全員（会員、家族、先生、ボランティア、昭和音大学生さん）で美味しいお弁当、お菓子、ミカンをいただきました。





名前	文字	名前	文字
大堀	孝・誠	古賀	翔
久田	誠・柔	久保	信
佐藤	健・愛	眞弓	健・輝
花輪	柔	古山	楽
丸山	活	陰山	福・愛
宮崎	美	中澤	楽
長田	笑		

## 中央の会新年食事会

中央の会は食事会后、例会、双六を行いました。



優勝商品をもらう太田さん



JR 横浜線双六ゲーム



## クラブ活動（音楽療法）



## クラブ活動（習字教室）



# NPO 法人れんきょう 平成 27 年度公開講座研修会

## 「失語症の正しい理解と接し方の実践講座」

日時：平成 28 年 2 月 13 日（土）13 時 30 分～16 時 00 分

場所：相模原市民会館 2 階 第 2 大会議室

NPO 法人れんきょうが主催し、失語症友の会が全面協力して平成 28 年 2 月 13 日（土）に相模原市民会館 2 階第 2 大会議室で開催しました。会場には大勢の受講者が集まり、皆さん熱心に受講されて、今後の失語症者に対する会話支援に大きな期待が持てます。

講座の内容ですが、さがみりハビリテーション病院市川科長より、「失語症の理解と支援～コミュニケーション・バリアフリーを目指して」講演があり、その後失語症当事者と言語聴覚士による対談を行いました。休憩後、4～6 名に班分けして、班ごとに言語聴覚士が 1 名ついて、きめ細かい指導で会話技術を体得してもらいました。

帰りにアンケートをお願いした結果、講演、ロールプレイは「良かった」が 80%以上でした。

一言コメントを多数いただきましたので、一部を紹介いたします。

- ♥知人が失語症になり、参考になればと横浜から参加しました。
- ♥具体的なヒントをロールプレイ、講座を通して学べて良かった。
- ♥家族が失語症なので、改めて対応の仕方など見直すヒントを得た。
- ♥失語症の方々が実際に困った内容が解り大変役立ちました。

(写真) 講演会の様子



(写真) ロールプレイの様子



## ☆☆ 編集後記 ☆☆

作品集『さえずり』第27号発刊に際し、会員と家族、そして友の会を支えてくださる関係者の多大なるご協力をいただき、お陰様でここに発刊することが出来ましたことに深く感謝申し上げます。

この『さえずり』を今後永く継続して行くために、皆さんの忌憚の無いご感想、ご要望、ご意見をお聞かせいただけましたら幸甚に存じます。

さらに次号では今号以上の方のご投稿をお願い申し上げます。

この27号の編集・印刷作業を昭和音楽大学大学院生と北里大学東病院の言語聴覚士の皆さんにご協力をいただき大変助かりました。ありがとうございました。

編集担当事務局：古山 高

### さえずり第27号

発行年月日      平成28年3月31日

発行者            相模原失語症友の会

会長 大堀 孝章



埼玉県見沼用水でのコハクチョウ